

「まちづくりサークルで地域の魅力アップ大作戦！」

大田市立三瓶公民館

1 三瓶ブロック地区の概要

大田市立三瓶公民館は三瓶山を中心とした三瓶町の池田、志学、北三瓶、多根地区、そして、山口町山口、佐津目地区といった広い地域のコミュニティーブロックの中にあり、3つのまちづくりセンターと連携・協力しながら事業に取り組んでいる。

ブロック内の人口は、約 1900 人で、池田、志学、北三瓶地区にそれぞれ小学校がある。中学校は志学、北三瓶地区にあり、山村留学センターの子ども達が北三瓶の小・中学校へ通っている。

今回、事業を行った志学地区は、人口 576 人で高齢化率が 50%を超えている地区である。＊平成 30 年 2 月 1 日現在

2 事業の趣旨

志学地区でも著しい高齢化、若者の県外流出の加速化が進んでおり、中・高齢者が中心となって様々な活動を行っている。最近では 20 代の若者も参加しだしたが、地域課題などの共有化を図るため、若者が気軽にアイデアを出し合える「まちづくりサークル」（居場所づくり）を考え、住みたい、戻りたい地域づくりのきっかけとなる仕掛けを行った。

3 具体的な取組内容



（「サークルたまりば」の会議の様子）



若者たちが、以前から行っているイベ

ントの企画・運営に関われるように気軽に話し合えるようなサークルをつくり、サークル名を「たまりば」と命名した。

（1）「たまりば」の取組

ア 企画・実践

「ふうりんおんせん」「さんべ志学の雪あかり」で活動する。



（イベントでの作業の様子）



（小・中学生も絵付けや飾りつけのお手伝い）

イ 知ってもらう活動

（ア）SNS 等で発信をする。

ツイッター、インスタグラム、フェイスブック、そして「志学ホームタウンプロジェクト」「たまりば」のホームページ、「プロジェクト三瓶山」のブログ等、それぞれが得意な方法で情報発信を行った。

（イ）フリーペーパーを発行する。

「COMECOME 三瓶山 夏、秋、冬号」を発行し、道の駅や公共施設などにおかせていただいた。



（今回発行したフリーペーパー）

ウ カフェの運営をする。

情報発信、情報交換、人との交流が目的でカフェの運営をした。

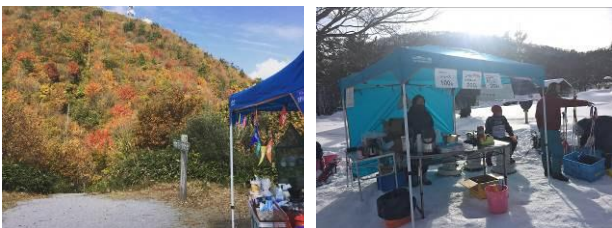
(ア)8月12日 ふうりんおんせん手持ち花火大会に出店

(イ)10月15日 国立三瓶青少年交流の家で開催されたさんべ祭に出店

(ウ)11月3日 三瓶山の太平山山頂で紅葉カフェを出店

(エ)11月12日 美里町の産業祭に出店

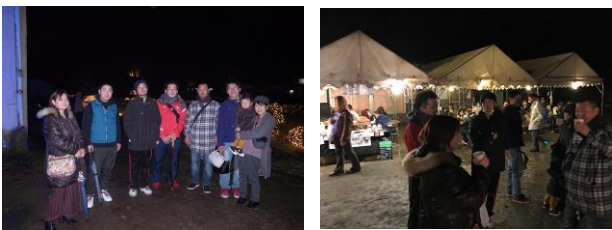
(オ)1月14日 東の原スキー場跡地で雪あかりプレイイベントに出店



(紅葉カフェ・雪あかりプレで情報発信と交流を楽しむ)

エ 視察にでかける

邑南町「INAKA イルミ」の視察を行った。たくさんの若者達がスタッフとして動いていること感心しながら、参考になることや、自分たちがやってみたいことが見えてきた良い機会となった。このイベントのキーマンとつながり思いを聞くことで、自分たちの活動を改めて考えることができた。



(邑南町の INAKA イルミを視察)

4 評価と成果

(1)若者達が地域に興味を持ち、会議や、「たまりば」の出店の時などで話をするときに、自分たちの考えや思いを語ってくれるようになった。「やらされているからやってやる」に意識が変わってきたように感じた。

(2) イベントに参加することで、自分たちの住んでいる地域の魅力に気付き、楽しいといってくれるようになってきた。

(3) 今まで深く話しをすることがなかった年代と交流が生まれ、挨拶だけでなく一緒に悩んだり、考えたり、楽しむことができる人たちが増えてきた。

地域の将来の話、たまりばの方向性など、真剣に考えて、話をしてくれている姿を見ると、心強く、たくましく思った。

5 今後の課題と見通し

(1) 課題

ア 興味・関心のない地域の人たちや若い子達をどう巻き込んでいくか。

イ 活動資金をどうしていくか。助成金を当てにするのではなく、自分たちで生み出すにはどうするか。

ウ 活動を進めていくための「たまりば」の拠点場所をどうするか。

(2) 見通し

ア 「たまりば」の活動を多くの人に知ってもらおう。ブログやホームページの見直しを行いたい。

イ 視察研修などを通して、他地域の人たちとの交流をして、つながりを増やしていきたい。

ウ 自分たち自身が楽しみながら、活動ができるようにしていきたい。

今回の地域力醸成チャレンジプロジェクトをきっかけに、若者達のやりたいことや考えていることなどを知ることができた。その思いを大切にし、地元地域の人たちや他地域の人たちともつながり、もっと自信を持って自分の地域が大好きだといえる活動を進めていきたい。

(文責:大田市立三瓶公民館 福島真夕子)